

■ さろん哲学 | Mail News 2011/6/11 | #1 ■

(*Bcc でお送りしています)

これまで「さろん哲学」にお申込・ご参加された方にご案内しています。

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

<http://salon-tetsugaku.g.hatena.ne.jp/>

■ さろん哲学 | Mail News 2011/6/11 | #1 ■

さろん哲学ではこの度、新しくメールニュースをスタートしました。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。

みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後ともさろん哲学を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラムは運営者側の個人的な考えを表したものです。

会としての、あるいは哲学を専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。

予めご了承ください。

さろん哲学 | Mail News 2011/6/11

INDEX ;

=====

【1】 5/21 (土) 15:00~17:00

さろん哲学 第9回 (進行:堀越)

テーマ:「恋心とは何か?」

議事録公開中

=====

【2】 6/18 (土) 15:00~17:00

さろん哲学 第10回 (進行:野田)

テーマ:「役割について考える」

ご予約受付中

=====

【3】 6/24 (金) 6:45~8:00

朝さろん 〈1〉 (進行：芹澤)

テーマ：吉本ばなな『キッチン』

ご予約受付中

=====

【4】 雑誌掲載情報

『男の隠れ家』 2011年7月号

特集：大人の哲学入門

=====

【5】 関連イベント情報

=====

【6】 コラム

■ 『恋心についての「なぜ」』

■ 『映画の恋心』

=====

//////////

【1】 5/21 (土) 15:00~17:00

さろん哲学 第9回

テーマ：「恋心とは何か？」

//////////

第9回さろん哲学が「恋心とは何か？」をテーマに開催されました。

日時：2011年5月21日(土) 15:00~17:00

テーマ：「恋心とは何か？」

進行：堀越

場所：青山アーキテクトカフェ

参加者：16名

HPに議事録を公開しています。

詳細はこちらをご覧ください。

<http://salon-tetsugaku.g.hatena.ne.jp/>

ご参加いただいた皆様どうもありがとうございました。

*

//////////

【2】6/18（土）15:00～17:00

さろん哲学 第10回

テーマ：「役割について考える」

//////////

第10回さろん哲学を「役割について考える」というテーマで開催します。

日時：2011年6月18日（土）15:00～17:00

テーマ：「役割について考える」

進行：野田

場所：アーキテクトカフェ青山店

定員：定員15名程度

現在ご予約受付中です。

詳細はこちらをご覧ください。

<http://salon-tetsugaku.g.hatena.ne.jp/>

皆様のご参加をお待ちしています。

*

//////////

【3】6/24（金）6:45～8:00頃

朝さろん〈1〉（進行：芹澤）

吉本ばなな『キッチン』（新潮文庫）

//////////

朝さろんを開催します。

通勤・通学の朝のひとつ、誰かと語り合ってみませんか。

コーヒーを片手に毎回一冊の本を読んで話します。

人文系の本を中心に、そこに潜む哲学的なテーマを話し合います。

吉本ばなな『キッチン』（新潮文庫）

日時：2011年6月24日（金）6:45～8:00頃

進行：芹澤

場所：新宿（ご予約頂いた方にご連絡します）

定員：8名程度（要予約）

テーマ：第9回さろん哲学のテーマを受けて、恋・愛・性・婚姻・血縁・家族などを考えられるものを選びました。

現在ご予約受け中です。

詳細はこちらをご覧ください。

<http://kono-lamp.com/asa-salon/>

*

//////////

【4】雑誌掲載情報

『男の隠れ家』 2011年7月号

特集：大人の哲学入門

//////////

先日のさろん哲学第9回に『日経トレンディ』の取材が入りました。

開催前に会の趣旨を説明したあと実際の会の様子を撮影し、

終了後には初参加の方へのインタビューも行われていました。

記事が掲載されましたらご案内します。

また、『男の隠れ家』の取材を受けました。

こちらは既に店頭に並んでいます。

お手にとってご覧ください。

『男の隠れ家』 2011年7月号

特集：大人の哲学入門（p.98「さろん哲学」）

*

//////////

【5】関連イベント情報

//////////

哲学カフェ関連イベント情報や体験後記等をご紹介します。

■「震災語る哲学カフェ 対話を重ね考え続ける場」

朝日新聞 2011年6月1日朝刊

<http://www.asahi.com/special/10005/TKY201105310345.html>

「てつがくカフェ@ふくしま」「仙台哲学カフェ」「てつがくカフェ@せんだい」等が紹介されています。

■「哲学／倫理学セミナー」

<http://pe-seminar.web.infoseek.co.jp/index.html>

第75回例会 2011.6.25/13:30～16:40

文京区民センター3-E 会議室

- ・「ベルクソン『時間と自由』における自由の主体について」 中原真祐子
 - ・「快苦と幸福—アリストテレス倫理学における〈生の完全化〉について—」 加藤喜市
- 自由参加のできる哲学セミナーで、基本無料です。
哲学をご専門とする研究者の方たちの発表が行われています。

■「デザイナーとしての棟方志功展」@荻窪「カフェ6次元」

<http://www.6jigen.com/index.html>

5/5（木）～6/5（日）まで開催中。

さろん哲学のスタッフも馴染みのカフェ。

現在は展示が衣替えのご様子ですが、いつもおもしろい企画をされています。

ブック交換会や読書会等も行われています。

*

//////////

【6】コラム

■『恋心についての「なぜ」』

■『映画の恋心』

//////////

■『恋心についての「なぜ」』 堀越 睦

人によってその時期や状況は様々だと思うが、誰でも一度は「恋」と呼ばれる経験をしたことがあるであろう。ロシアの偉大な小説家、トルストイは言う。「確実に幸せな人となるただ1つの道は人を愛することだ」。人を愛していれば、心が充実する。だから、人を愛する人は、幸せな心を持ち、幸せな人になれる、というのである。

幸せの定義は人により異なるであろうが、確かに人は恋に落ちた途端に、その相手のことだけを四六時中考え続けずにはいられず、その人と些細な言葉を交わすだけ、あるいは髪の毛などの体の一部が触れるだけでも、心がときめき、胸が張り裂ける程に満ち足りることがある。このような情動や状態を、人によっては嫌い、人によってはこの上なく好む。恋は不思議で、それ故に人により受け止め方は一様ではない。

では、この恋の何が不思議なのかを一緒に考えてみたい。

恋をした時のドキドキする昂揚感。その人と会っていない時でさえ、自分を取り巻く環境が一変し、五感で知覚する全てのものに今までは感じたことがない新鮮さや、何もかもが輝くような素晴らしさを感じる。「ものの見方が変わった」と感じる人もいるかもしれない。あの昂揚感の正体は一体何なのか。

近年の脳科学の研究によって、ドーパミン報酬回路の活性化によるものであるとが考えられている。ドーパミンとは、モチベーションを誘起し、目的のある行動を強化する働きがある脳内神経伝達物質の一種であることが解っている。そして驚くことに、このドーパミン報酬回路の活性化状態は、薬物・アルコール依存症の状態と同じであり、「ヤクをくれ〜」という欲求と「あの人と一緒にいたい」という欲求が同じ仕組みで起こることが解っている。^{*1)}

人が遺伝的にどれくらいの数の気質を受け継ぐのかは、正確にはまだ誰にも分からない。しかしここ数十年の人間行動遺伝学の発達によって、DNA と関係する性向のリストが解析され、一群の相互作用遺伝子が行動に影響を与え、ある種の行動症候群を生み出す場合があることが解ってきた。それらは遺伝支配的な脳内神経伝達物質により以下の4タイプに大別される。

ドーパミンは新規性を求め創造性に富む冒険型。

セロトニンは親近性・保守性を重視し規範や慣習に従う建設型。

テストステロンは論理的・分析的で集中力ある指導型。

エストロゲンは幅広い情報を収集し統合する思考ができる交渉型、である。

これらは非常に単純化した類型化であり、実際の人においては、これらの性向が遺伝的・環境的な要因によって複雑に混合されることで、個性・人格が形成されると考えられている。*2)

では、他にも複数の候補者がいる中でなぜ彼・彼女を好きになるのか。

この選択は図形や食べ物と同じメカニズムでの選好選択なのか。近年の潜在認知の科学の研究により、その仕組みが少し解ってきている。対象に長く触れることでその対象への親近性が増し、選好選択する確率が高まるという。

例えば、2人の候補者から選好選択する際に、見る時間を本人が気付かないうちに少しだけ長く設定をすることによって、より長く見た対象を選択する確率を約 10%だけ高く操作できたというデータもある。一方、親近性だけでは飽きる性向もあるため、新規性傾向も保持され、親近性傾向への逆向きのモーメントを形成する。

ひょっとすると、この親近性と新規性選好の性向は、既述した遺伝支配的な脳内神経伝達物質により、私達の知らないうちに支配されている可能性があるのかもしれない。*3)

上記のような知見をいくら理解しても、「なぜその人なのか？」という問いに対する答えとして考えてみると、私には全く納得感が得られない。なぜであろうか。

上述の3つの科学的知見は、いずれも好きになるメカニズム、つまり、「どのように」好きになるのかを解き明かす試みである。そして傾向的分析、確率的な論証である。

だから、「なぜ」、私の心を占領して止まない「あの人」を好きなのか、その「唯一性」は「なぜか」という問いには答えたことになっていないからではないだろうか。

脳科学あるいは認知科学を含む科学は、いずれ近いうちに「どのように」人を好きになったのかを解き明かすかもしれない。だが、「なぜ」あの人なのかを説明してくれる気がどうもしない。私にとって、この「なぜ」は、やはり哲学の領域のテーマなのだ。

*1) LOVE って何？ 岩田和宏著 幻冬舎ルネッサンス

*2) 「運命の人」は脳内ホルモンで決まる！ ヘレン・フィッシャー著 講談社

*3) サブリミナル・インパクト 下條信輔著 ちくま新書

■『映画の恋心』 芹澤

一度別れたカップルがいる。

けれどふたりは、かつてお互いが愛し合っていたことを、ある装置を使って記憶から抹消している。

そんなふたりが偶然再開する。

そして段々惹かれあい、ふたりは互いに恋をする。

だけどまた喧嘩し、別れを迎えるようになる。

その時、ふたりはふとしたことから、自分たちがかつて恋し合い、別れ、記憶を消したことを知ることになる。

当然ものすごい混乱が起きる。荒れる。ののしり合う。

別離が確定的なものになる。

だけどおもしろいのはここからで、ふたりはその後、もう一度じぶんたちの距離を詰めていく。

そして、なんと再々度、恋がはじまろうとする。

今度の恋ははたして続くのか。それとも？

あるいは恋が続くためには別のなにかが必要なんだろうか。

そういうことをたくさん考えさせられる映画、

それが『エターナル・サンシャイン』。



第9回さろん哲学のお題は「恋心とは何か？」だった。

恋心と恋と愛と愛情と博愛と。

そのどれもが微妙に違ってどこかで重なってるようだ。

このお題の下、どこを話し合いの中心と決めて進めるのか、

その選択の幅広さとその後の議論の多彩な広がりそのものが「恋心」の複雑さをそのまま体現してるかのようにおもえる。

だが、恋心における原点には出会いが不可欠だ。

より具体的な相手の存在が。

それがはじまりになる。

じゃあ恋のおわりは？

愛との関係は？

先に挙げた映画は、私たちがそのような問題に踏み込んで考えようとする際に非常に興味深い。

映画はこれまで、多彩な恋の様式を紡いできた。

ここでは、さろん哲学のテーマにも通じるいくつかの映画を紹介したい。



NYに住むアラサー女性が友人のパーティーでクールなパリジャンと出会う。

もちろん恋に落ちる。

その時彼女は、自分のなかに恋愛への渴望や結婚願望があることと向き合うことになる。

それまで自分はそんなものに関心がないとおもってきたのに。

彼女はどんどん恋にのめり込む。

結婚を意識しないでいられなくなる。

だけどパリジャンは違う。

彼は彼女にいうんだ。

僕は君を愛してる。だけどそれがいつまで続くかなんてわからない。

わからないけど、いまの僕は君とこうしていることで満たされてる。

彼女の欲求は、この彼の前では満たされない。

だから彼女は彼と距離を置く。

なのに。

彼女は、彼の住むパリへと飛んでいく。

そしてパリの街角のカフェでふたりは再開する。

彼はもちろん、一緒に今といういい時間を過ごすことだけをかんがえてる。

恋する一心でパリまで来てしまった彼女は彼と対面してそれを思い出す。

胸が苦しくなる。どうしようもなく切なくなる。

だけど叫びたいほどうれしい。

なにせ海を越えてきたんだから。

そこで映画はおしまい。

このあとふたりがどうするのか。このふたりを幸せと見るのか。

そういったことはまるまる観た人にゆだねられてる。

エンディングでふたりが飲むコーヒーは随分苦いんだろうなとおもいながら、

「結婚しよう」なんて安っぽくならない分だけ、シンプルで潔い。

だからふしぎと清々しいんだ。

『ブローケン・イングリッシュ』



もう一本。

ここにもやはり、恋に落ちた哀しい男がいる。

運命の出会いを感じ愛を告白したところ、女性から「友達になりましょう」と色気のない返事をされる。

でも今どきの二人は、それでもなんとなく恋人のような付き合いをはじめます。

だが彼女はいつまでも「友達だ」と言い張るのだ。

そうした形ではじまった恋愛がどこへ転んでいくのか。
なぜ「友達」と言い続けるのか。
友達状態と恋愛状態がここではどう分けられているのか。
それをとびきりスタイリッシュに、ふんだんにキュートに描いた映画。
それが『(500)日のサマー』(2009)。
結末もちろん独創的。



この3本をみると、恋心が時間とともに変化してくのがよくわかる。
だけどその先にあるのは決してひとつじゃない。
どこにもいかないこともある。
そういう異なる景色を幾つか観てからお題を振り返ると、
恋心を探っていくときに自分がどこを中心点とするのがいいのか、
その勘が前より研ぎ澄まされたような気分になるのだ。

- ・『エターナル・サンシャイン』(2004)
ジム・キャリー／ケイト・ウィンスレット
監督ミシェル・ゴンドリー
- ・『ブローケン・イングリッシュ』(2007)
パーカー・ポージー／メルヴィル・プポー
監督ゾーイ・カサヴェテス
- ・『(500)日のサマー』(2009)。
ジョゼフ・ゴードン＝レヴィット／ズーイー・デシャネル
監督マーク・ウェブ

*

今号のメールニュースは以上です。
また次号(7月発行予定)お会いしましょう。
(編集: 芹澤)

さろん哲学 | Mail News 2011/6/11

=====

さろん哲学

～あたまのピクニック～

<http://salon-tetsugaku.g.hatena.ne.jp/>

salontetsugaku@googlegroups.com

=====



"copyright (C) 2011 さろん哲学. All rights reserved."